

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320118

研究課題名(和文) 前近代東アジアの外交と異文化接触 - 日明関係を軸とした比較史的考察 -

研究課題名(英文) Diplomacy and Intercultural Contacts in Pre-modern East Asia: A Comparative Historical Research with a special focus on Sino-Japanese Relations during the Ming Period

研究代表者

村井 章介 (murai, shosuke)

立正大学・文学部・教授

研究者番号：30092349

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,100,000 円、(間接経費) 4,230,000 円

研究成果の概要(和文)：古代日本の遣唐使に比べて、日本の伝統文化の形成期にあたる室町時代の遣明使に関する研究は少なく、まだ基礎的な部分もおぼろげなままである。

そこで本研究課題において、おもに遣明使の中国での活動に重点を置きながら、歴史学的な基礎研究を行った。具体的には、遣明使となった僧侶の残した入明記を精読し、中国でのフィールドワークと突き合わせ、他国・他地域から中国への朝貢使節との比較も視野に入れながら、遣明使の歴史的特性を明らかにすることに一定程度成功した。

研究成果の概要(英文)：Compared with Japanese official embassies to Tang China, there exist only very few studies on Japanese official embassies sent to Ming China during the Muromachi period, i.e. the formative period of traditional culture in Japan, while even basic issues are still not revealed. Therefore, this project aimed to perform fundamental historical research concentrating mainly on the activity of Japanese embassies in Ming China.

Concretely, in this project we have carefully examined the records and diaries of Buddhist monks who became envoys and compared our findings with the results of fieldworks in China. Further, we have also looked at tributary embassies from other countries and territories to Ming China and compared their activities with that of the Japanese embassies. As a result of this historical-comparative research, we were able to reveal the historical nature of Japanese embassies to Ming China in the context of diplomacy in Pre-modern East Asia.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：遣明使 日明関係 勘合貿易 入明記 朝貢 運河 都市 儀礼

## 1. 研究開始当初の背景

古代日本の遣唐使のように、律令国家論や正倉院御物といった頂点的素材に結びつくことが少ないためか、遣明使に関する研究は驚くほど少ない。遣明使に関する専論としては、小葉田淳『中世日支通交貿易史の研究』(1941年)や、鄭樑生『明・日関係史の研究』(1985年)、佐久間重男『日明関係史の研究』(1992年)、田中健夫『中世対外関係史』(1975年)などがある程度である。遣明使の性格の変遷や中国明朝にとっての日本の位置づけといった大枠の議論に終始し、抽象的な論が先行している。遣明使の行程や行動について逐一実証した成果は未だ乏しいと言わざるを得ない。

遣唐使が律令制度や仏教などの先進的文化導入に果たした役割は確かに重要だが、遣明使の役割もそれ以上に無視できない。この点については、特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」(通称「寧波プロジェクト」; 領域代表=小島毅(本申請の研究分担者))が各方面で明らかにしたように、日本の伝統文化の形成を見たのがまさしくこの遣明使の時代だったからである。遣明使の果たした歴史的役割が重要と考えられる理由の一つである。

ただし近年、東アジア海域史の分野が盛んになったことを承けて、日明関係史においても漸く新たな進展が見られるようになった。たとえば、研究代表者の村井章介は、足利義満によって日明関係が結ばれる過程を初めて詳細に解明し(『アジアのなかの中世日本』1988年ほか)、日本と明における政治史的な連環の様相を明らかにした(『国境を超えて』1997年ほか)。単に日明関係史上の史実を発掘するのみならず、それが日本史の展開に与えた政治的影響の大きさを解明したと言えよう。研究分担者の橋本雄には、関連史料をつきあわせて遣明船経営のバランスシートを解明した研究(「遣明船と遣朝鮮船の経営構造」1998年)や日明勘合の形状や機能等に関して既往説を覆す論稿(「日明勘合再考」2008年)があり、不朽の成果と考えられた小葉田・田中らの研究が盤石のものでないことを示しつつある。

折しもこれと呼応するかのように、2000年頃から遣明使に関する史料研究が盛んになってきた。村井や研究分担者の須田牧子、連携研究者・研究協力者の関周一・榎本渉・米谷均・手島崇裕・岡本真らが参加した輪読会の成果により、平凡社東洋文庫から『笑雲入明記』訳注本が公刊される予定である(2010年刊行)。研究協力者の伊川健二には、天龍寺妙智院所蔵『戊子入明記』の記事内容を詳細に検討し、その成立を解明した研究もあり、須田や研究分担者の伊藤幸司ともども妙智院史料の調査・研究を行なっている(伊川『大航海時代の東アジア』2007年、伊藤『史料紹介『渡唐方進貢物諸色注文(天文十二年后)』

2007年)。また伊藤は、禅宗史や美術史の素材とされてきた肖像画の賛文に注目し、新たな入明僧を発掘するとともに遣明使の性格の変遷について論じている(「日明交流と肖像画賛」2009年)。

このように、小葉田の著作から半世紀以上を経た今、遣明使に関する研究は急速に発展し、精緻化している。遣明使をめぐる研究成果を集約し、今後の研究の進展を展望する機が熟しつつあると言えよう。そのなかで、円仁(遣唐使に加わった留学僧)の『入唐求法巡礼行記』に匹敵する長篇史料、『策彦和尚初渡集』(4巻)・『同再渡集』(2巻)(策彦周良は天文7年・16年の二度、それぞれ副使・正使として入明)については、かつて牧田諦亮が翻刻をし、概要を紹介した(『策彦入明記の研究』1955年)ほかは、目立った研究がないのが現状である。また、牧田の翻刻は重要な成果ではあるが、個人で成し遂げたものゆえ翻字等に疑問も残るし、現在の史料学や文書学の水準から見れば不十分な点も多い。つまり、原本に忠実な、新たな翻刻・研究が必須だと考えられる。

今回の申請メンバーの半分近くが重なる特定領域研究「寧波プロジェクト」の「日明関係班」では、『初渡集』中巻の厳密な翻刻・校訂を目指し、2006~2009年の4年間、原本の写真をベースに輪読会を催してきた(校訂の成果は2013年に『寧波と博多』汲古書院から刊行)。併せて『初渡集』に登場する、日明関係史上重要な遣明使関連の史蹟(主に浙江地域)を踏査し、記事内容の現地比定を行なうとともに、記事の倒錯や誤記の発見などの史料批判を積み重ねてきた。フィールドワークと融合させて、史料研究を相当深めることができた実感している。この研究成果が、本研究の直接の前提となっている。

## 2. 研究の目的

本研究では、まず妙智院所蔵『初渡集』下巻の翻刻・校訂に取りかかりたい。ただし、高い水準での研究を目指すためにも、その他の妙智院所蔵の遣明使関係史料や、中国浙江地域の地方官が遣明使に与えた公文書の写を綴った「嘉靖公牘集」(芳洲文庫所蔵)など、『初渡集』と密接に関連する諸史料にも目配りする。そして、これらの諸史料を突き合わせ、遣明使の行動を立体的に復元することを目指す。

中国は現在、どこにおいても激しい開発ラッシュで、歴史的景観が急速に損なわれつつある。したがって、歴史的建造物や遺物はもちろん、史蹟の現地比定すら危うい状況に陥りつつある。至急に史蹟を探訪し、その成果を史料研究に活かさねばならない。『初渡集』下巻は、寧波から北京に向かう長大な旅程を描く部分であり、フィールドワークも困難が予想されるが、これまで「寧波プロジェクト」の踏査研究で培った経験を踏まえれば、効率的な調査ができるものと考えられる。これにより、

精度の高い史料翻刻・研究が実現できることを確信する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 輪読会プロジェクト

本研究の主たる成果となる、妙智院所蔵『初渡集』下巻の翻刻に向けての講読が最重要課題として挙げられる。本史料の解読に当たっては、中国史の政治・経済・社会にわたる知識が不可欠であるほか、記主が禅僧であるために禅宗の知識も必要である。仏教や中国の故事が散りばめられており、中国史・仏教史・日本史・国文学・漢文学といった様々な分野の知識や学問的蓄積が応用されねばならない。

具体的には、年2回、集中的(2泊3日)に東京大学史料編纂所へ集まり、担当箇所をあらかじめ決めて輪読会を行ない、文字や読みを確定した。翻刻の方針や手続きなどについては、すでに一定程度のルールを定めているが、さらに問題等を発見した場合は、適宜ルールを定め、凡例を改訂していった。なお作業結果は、テキストデータとして保存し、ML上で情報を共有した。これは将来、WEB上で公開しよう、加工可能な状態としておく必要からである。

#### (2) 現地踏査プロジェクト

日本の遣明使の北京上京ルートで、これまで全くの未踏査地域である江蘇省北部～山東省～河北省～天津～北京の大運河沿いの諸都市と北京城内を重点的に行う。さらに、日本の遣明使との比較的考察の必要上、高麗・朝鮮の遣明使の入貢ルートの現地踏査(遼寧省方面)を行う。その際、各種入明記・中国地方誌・古地図などの文献史料を予め収集した。現地踏査に際しては、詳細な踏査日記を記録し、踏査写真とともに後日その成果の公開に備える。

### 4. 研究成果

(1) 本研究がもっとも重点をおいてきた妙智院所蔵『初渡集』下巻の翻刻・講読作業については、予定通り本研究課題期間中に終了することができた。具体的には、毎年2回、集中的に東京に集まって講読を行い、講読メンバーで作成した凡例に沿って文字や読みを確定し、基礎的な注釈を施したテキストを作成したものである。今後の課題としては、残る「下之下」巻および『策彦和尚再渡集』について同様な作業をいかに続けるか、またこれまでに作成・確定したテキストの公開をいかに行うかなどが挙げられる。後者については印刷公刊・Web公開など、さまざまな具体化の方向を検討していきたい。

(2) 申請書段階では予定していた、外交比較研究に関するワークショップ等は、時間的・金銭的制約から、それのみで開催することが叶わなかったが、比較外交儀礼の観点から、研究分担者・連携研究者・研究協力者が検討をすすめる、それによっていくつかの研究

成果が得られた(研究成果欄参照)。また、不十分ながら、Email等で日常的に情報交換や議論を進めてきた。なお、次の③に掲げる遼東地域での現地調査は、比較史的検討の關を埋める意味を持つ。

(3) 最終年度の現地調査は、2013年8月24日から9月1日、遼東半島方面で実施した。おもに、朝鮮から中国北京への朝貢使節(燕行使)の辿った陸路につき、基点となる地域・都市を辿っていく内容である。同時にこれは、過去3か年度に行なった日本の遣明使節の入朝ルート(揚州から北京を調査)との比較を企図したものと位置づけられる。具体的には、瀋陽・遼陽・丹東・大連等のほか、鴨緑江河口等も巡検し、明清時代・李朝時代の関連史蹟を辿り、その地勢や距離感等の把握に成功したと思う。江南の浙江から、運河沿いに北上する遣明使のルートと異なり、乾燥した陸路を延々と辿る朝鮮燕行使の旅はさらに負担の大きいものであったことが推察される。

(4) 4ヶ年間の研究成果として、『遣明船入門』(勉誠出版)を出版予定である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 48件)

①村井章介、「『日本』の自画像」「岩波講座日本の思想第3巻内と外-対外観と自己像の形成」岩波書店、査読無、2014年、45-83頁。

②堀川貴司、「伝策彦周良撰『詩聯諺解』解題と翻刻」鶴見大学日本文学会編『国文学叢録 論考と資料』(笠間書院)、査読無、2014年、302~323頁。

③堀川貴司、「『[日課一百首]』解題と翻刻」『花園大学国際禅学研究所論叢』、査読無、第8号、2014年、49~70頁。

④伊藤幸司、「海域ネットワークのなかの五山」、島尾新編『東アジア海域に漕ぎだす4東アジアのなかの五山文化』東京大学出版会、pp. 53-77、2014年、査読無。

⑤岡本真・須田牧子、「宮内庁書陵部所蔵『策彦和尚往来筆記』』『東京大学史料編纂所紀要』24、102-114頁、査読無、2014年。

⑥手島崇裕、「入宋僧奮然の世界観について」『日語日文学研究』88巻2号、査読有、2014年、225~244頁。

⑦村井章介、「十五世紀朝鮮・南蛮の海域交流」森平雅彦編『中近世の朝鮮半島と海域交流』汲古書院、265-291頁、2013年。

⑧村井章介、「中世史における「アジア」」第50回中世史サマーセミナー実行委員会編「日本中世史研究の歩み-中世史サマーセミナー50周年記念シンポジウム報告集」岩田書院、査読無、2013年、19-43頁。

⑨村井章介、「<境界>を考える」歴史学研究会編「歴史学のアクチュアリティ」東京大学出版会、査読無、2013年、65-86頁。

⑩荒野泰典・村井章介、「地球的世界の成立」

荒野泰典・石井正敏・村井章介編「日本の対外関係5地球的世界の成立」吉川弘文館、査読無、2013年、1-51頁。

⑪伊藤幸司、「大内氏の外交と大友氏の外交」、鹿毛敏夫編『大内と大友—中世西日本の二大大名—』勉誠出版、査読無、2013年、479-514頁。

⑫オラー・チャバ、「天文八年の「大内氏」日本使節とその貿易活動」鹿毛敏夫編『大内と大友—中世西日本の二大大名—』、勉誠出版、439-477頁、2013年、査読無。

⑬関周一、「中世「東アジア史」研究の動向」『歴史学研究』906号、査読有、2013年、25-55頁。

⑭豊島悠果、「宋外交における高麗の位置付け—国書上の礼遇の検討と相対化—」、平田茂樹・遠藤隆俊編『東アジア海域叢書7外交資料から十～十四世紀を探る』汲古書院、2013年、pp141-170。

⑮手島崇裕、「入宋僧寂照の中国国内での位置取りをめぐる」『日語日文学研究』86巻2号、査読有、2013年、155-173頁。

⑯堀川貴司、「増補・改編本による補遺および諸本所収作品対照表—『新選集』『新編集』研究その三—」『斯道文庫論集』47、査読無、p.111-147、2013年。

⑰須田牧子・岡本真、「天龍寺妙智院所蔵『明国諸士送行』」『東京大学史料編纂所研究紀要』23号、査読無、pp.233-245、2013年。

⑱須田牧子、「『笑雲瑞訢入明記』文献学的研究」王勇編『東亜坐標中的書籍之路研究』中国書籍出版社（中華人民共和国）、査読無、180-191頁、2013年。

⑲伊藤幸司・岡本弘道・須田牧子・中島楽章・西尾賢隆・橋本雄・山崎岳・米谷均、「妙智院所蔵『初渡集』巻中・翻刻」中島楽章・伊藤幸司『寧波と博多』汲古書院、査読無、385頁/443頁、2013年。

⑳須田牧子、「妙智院所蔵『初渡集』巻中・解説」中島楽章・伊藤幸司『寧波と博多』汲古書院、査読無、367頁/383頁、2013年。

㉑岡本弘道、「『外夷朝貢考』からみた明代中期の国際システム」中島楽章・伊藤幸司編『寧波と博多』、汲古書院、査読無、267-291頁、2013年。

㉒米谷均、「日明・日朝間における肅拝儀礼について」中島楽章・伊藤幸司編『博多と寧波』汲古書院、査読無、293-324頁、2013年。

㉓橋本雄、「生きた唐物」池田透編『生物という文化』北海道大学出版会、査読無、71-104頁、2013年。

㉔榎本涉、「元末明初の日元航路」范金民・胡阿祥主編『江南地域文化的歴史演進文集』三聯書店、2013年、pp.509-530、査読無。

㉕オラー・チャバ、「寧波における日本使節の貨物検査について—入明記からみる「盤驗」と福建における琉球船の「会盤」」(『東京大学日本史学研究室紀要』別冊「中世政治社会論叢」、43-59頁、2013年、査読無。

㉖岡本真、「目録からみた妙智院旧蔵策彦周

良入明関係史料」(『東京大学日本史学研究室紀要』別冊「中世政治社会論叢」、61-72頁、2013年、査読無。

⑳堀川貴司、「名所としての中国—「西湖」を中心に—」『文学・語学』204、査読無、p.47-57、2012年。

㉑須田牧子、「The Experiences of Japanese Monks Sent as Envoys to Ming China」*ACTA ASIATICA*, no. 103、査読無、53/77頁、2012年。

㉒橋本雄、「Korea in Muromachi Culture: Cultural Exchange between Japan and Korea and between Ryukyu and Korea,」*ACTA ASIATICA*, no. 103、査読無、pp.23-52、2012年。

㉓橋本雄、「室町日本の外交と国家」『日本史研究』600号、査読有、82-110頁、2012年。

㉔榎本涉、「僧伝出版から見た清初仏教と江戸仏教」『歴史と地理』656、2012年、pp.1-14、査読無。

㉕榎本涉、「長崎暗臺寺と福州鼓山—『日域洞上諸祖伝』撰述の背景—」『駒澤大学禅研究所年報』24、2012年、pp.69-97、査読無。

㉖豊島悠果、「高麗開京の都城空間と思想」『中国—社会と文化』27、pp70-89、2012年、査読無。

㉗オラー・チャバ、”Border defence, border inspection and foreign embassies in the Ming period“, in Beller-Hahn Ildiko, Rajkai Zsombor (eds.) *Frontiers and Boundaries: Encounters on China's Margins* (Asiatische Forschungen 156); Harrassowitz Verlag, Wiesbaden, pp.107-28、2012年。査読無。

㉘関周一、「武家政権と『唐船』—寺社造営料唐船から遣明船へ—」山本隆志編『日本中世政治文化論の射程』思文閣出版、査読無、2012年、3-23頁。

㉙村井章介、「十年遊子は天涯に在り—明初雲南謫居日本僧の詩交」『アジア遊学』142、183-196頁、査読無、2011年。

㉚村井章介、「雪舟等楊と笑雲瑞訢：水墨画と入明記にみる明代中国」『東洋文化研究所紀要』160、1-37頁、査読無、2011年。

㉛岡本弘道、「明朝の「朝貢体制」の体系的把握に向けて——『明実録』による憲宗期朝貢事例表の作成を中心に」『東アジア文化交渉研究』第4号、415-446頁、査読有、2011年。

㉜須田牧子、「『蔭涼軒日録』(蔭涼軒歴代)一室町殿外交の舞台裏」松蘭斎・元木泰雄編『日記で読む日本中世史』ミネルヴァ書房、査読無、180-198頁、2011年。

㉝伊藤幸司、「東アジア禅宗世界の変容と拡大」川岡勉・古賀信幸編『西国の文化と外交』清文堂』7-42頁、2011年。

㉞山崎岳、「方国珍と張士誠—元末江浙地方における招撫と反逆の諸相」井上徹編『海域交流と政治権力の対応』汲古書院、査読無、pp.3-33、2011年。

㉟オラー・チャバ、「日本の遣明使節と浙江

巡撫朱統一『覽余雜集』からみる嘉靖二十七年の投書及び金銭詐取事件』『東方学』第122輯、66-82頁、2011年、査読有。

㉓オラー・チャバ、「浙江巡撫朱統一の遣明使節保護・統制策と「信票」の導入—『覽余雜集』と『嘉靖公牘集』からみる—」『史学雑誌』120-9号、39-60頁、2011年、査読有。

㉔橋本雄、「北条得宗家の禅宗信仰をめぐって」西山美香編『古代中世日本の内なる「禅」』、勉誠出版、査読無、94-111頁、2011年。

㉕榎本涉、「雲南の日本僧、その後」『アジア遊学』142、2011年、pp.197~220、査読無。

㉖村井章介、「倭寇とはだれか：十四～十五世紀の朝鮮半島を中心に」『東方学』119輯、pp.1-21、査読有、2010年。

㉗橋本雄、「大蔵経の値段——室町時代の輸入大蔵経を中心に——」『北大史学』50号、査読有、1-36頁、2010年。

㉘伊藤幸司、「硫黄使節考：日明貿易と硫黄」『アジア遊学』132号、pp.154-172、2010年。

〔学会発表〕（計13件）

①村井章介、「15世紀日朝外交秘話—李藝と文溪正祐」立正史学会、2013年6月23日、立正大学。

②村井章介、「異文化接触としての戦争」立正大学人文科学研究所定例発表会、2013年7月10日、立正大学。

③村井章介「豊臣秀吉は朱印船を送ったか—世界征服構想と南蛮貿易」埼玉県社会科教育研修会、2013年12月13日、川越女子高校。

④村井章介、「「日本」の自画像—行基図を中心に」駒澤大学大学院仏教学研究会公開講演会、2014年2月10日、駒澤大学。

⑤橋本雄「北条時頼・時宗の禅宗信仰」鎌倉禅研究会、2013年5月9日、鎌倉建長寺。

⑥堀川貴司、「中世日本禅僧による注釈書について」韓国延世大学校人文学研究院・慶應義塾大学文学部共同学術大会「文字と古典の解釈」、2013年04月26日、延世大学校（大韓民国）。

⑦堀川貴司、「漢籍から見る日本の古典籍—版本を中心に—」国文学文献資料調査員会議、2013年06月06日、人間文化研究機構国文学研究資料館。

⑧橋本雄、「中世日本と東アジアの金属流通」考古学と中世史研究会、2013年7月6~7日、帝京大学文化財研究所。

⑨橋本雄、「八重山に漂流した朝鮮人たち」琉球大学法文学部歴史教育公開研究会、2013年10月24日、沖縄県立八重山高校。

⑩伊藤幸司、「日本的遣明船和禅僧」、「東亞文化意象之形塑—觀看、媒介、行動者」國際學術檢討會、2012年09月05日、国立台湾大学。

⑪橋本雄、「中世日本の外交と国家」北海道日本史教育研究会、2012年8月2日、札幌市教育文化会館。

⑫伊藤幸司、「港町複合体としての中世博多

湾」、福岡市史研究会、2011年11月19日、福岡市博物館。

⑬伊藤幸司、「The Muromachi Shoguns' Use of Zen Monks for Diplomacy」Association for Asian Studies (AAS) 2011年3月31日、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市・ハワイコンベンションセンター。

〔図書〕（計14件）

①村井章介、『日本中世境界史論』岩波書店、406頁、2013年。

②村井章介、『富と野望の外交戦略』NHK出版192頁、2013年。

③橋本雄、『“日本国王”と勘合貿易』NHK出版224頁、2013年。

④中島楽章・伊藤幸司編、『寧波と博多』汲古書院、450頁、2013年。

⑤小島毅監修、『海から見た歴史』東京大学出版会、304頁、2013年。

⑥村井章介、『日本中世の異文化接触』東京大学出版会、512頁、2013年。

⑦村井章介、『中世史研究の旅路—戦後歴史学と私』校倉書房、262頁、2014年。

⑧関周一、『朝鮮人のみた中世日本』吉川弘文館、236頁、2013年。

⑨橋本雄、『偽りの外交使節—室町時代の日朝関係』吉川弘文館、224頁、2012年。

⑩村井章介、『世界史のなかの戦国日本』ちくま学芸文庫、320頁、2012年。

⑪村井章介、『増補日本中世の内と外』ちくま学芸文庫、320頁、2012年。

⑫堀川貴司、『五山文学研究 資料と論考』笠間書院、344頁、2011年。

⑬橋本雄、『中華幻想—唐物と外交の室町時代史』勉誠出版、332頁、2011年

⑭村井章介・須田牧子編、『笑雲入明記—日本僧の見た明代中国』平凡社、359頁、2010年。

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

[その他]

なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

村井章介（立正大学文学部教授）

研究者番号：30092349

### (2) 研究分担者

小島 毅（東京大学大学院人文科学研究科教授）

研究者番号：90196719

堀川貴司（慶応義塾大学斯道文庫教授）

研究者番号：20229230

伊藤幸司（山口県立大学国際文化学部准教授）

研究者番号：30364128

橋本 雄（北海道大学大学院文学研究科准教授）

研究者番号：50416559

岡本弘道（県立広島大学人間文化学部准教授）

研究者番号：70469237

須田牧子（東京大学史料編纂所助教）

研究者番号：60431798

### (3) 連携研究者

関 周一（宮崎大学教育文化学部准教授）

研究者番号：30725940

中島楽章（九州大学大学院人文科学研究科准教授）

研究者番号：10332850

榎本 渉（国際日本文化研究センター准教授）

研究者番号：60361630

オラー・チャバ（国際基督教大学教養学部准教授）

研究者番号：70646380

豊島悠果（神田外国語大学外国語学部専任講師）

研究者番号：10597727

山崎 岳（京都大学人文科学研究所助教）

研究者番号：60378883

岡本 真（東京大学史料編纂所助教）

研究者番号：50634036

### (4) 研究協力者

西尾賢隆（花園大学名誉教授）

手島崇裕（慶熙大学校外国語大学日本語学科助教授）

米谷 均（早稲田大学等非常勤講師）

伊川健二（成城大学等非常勤講師）